

山行報告書

報告書作成

2004年3月17日

山名[山域]	野伏ヶ岳	目的と方法	雪上訓練
登山期間	3月13日～3月14日	山行形態	1泊2日(テント泊)
参加人数	10人		

行動記録

3/13(土) 道の駅白鳥(7:40)==上在所(8:15,8:50)--和田山牧場(10:55,11:00)--幕営地(11:15)TS1
 3/14(日) TS1(6:30)--野伏ヶ岳(9:10,9:40)--幕営地(10:40,12:30)--上在所(14:25,14:40)
 ==満天の湯(14:50,16:10) 解散

概念図



日誌

3/13(土) 天気は快晴。自分の遅刻、車の燃料切れなどで遅れるも、上在所に計画通りに到着。上在所にはすでに数台の車が停まっている。準備をし出発。除雪された舗装道の脇には高さ2m雪の壁があり、奥美濃の雪深さに驚かされる。少し歩き、ここから山スキー(S)隊と登山(C)隊に分かれて林道を進む。雪の重みで曲がった木の枝が行く手を遮っている所が多く、この時期以外に登山客があまり入っていないと察せられる。腐った雪に足を取られたり、植木の杉の花粉も少々飛んでいたようだったが、天気が良く快適なスノーハイクを楽しむことができた。林道を抜けると一気に展望が開け、和田山牧場となる。一面真っ白な牧場から真っ直ぐ尾根を辿っていき、小さな丸い頭の山が野伏ヶ岳、その他銚子ヶ峰など白山周辺の山々が周りに広がり、どの山も本当に真っ白で登山意欲を掻き立てられる。牧場の奥にテント場に適した風を遮れそうな場所があるので、本日はここで幕営。設営し、皆で雪遊びをしながら暴風壁、キツ城を立派に作り上げる。午後は雪山歩行、滑落停止、ビーコン使用などの訓練をみっちり行い、その後はいつも通り宴会が始まって、お酒が切れた頃満天の星空の下で寝た。

3/14(日) 天気は晴れ。大明神様がCLなのに2日連続で晴れとは本当に珍しい。大明神様に感謝し、大展望を期待して北東尾根を登り始める。薙刀山の方には雪の地面に大きな亀裂が入っている所や、せっぴなどがあり、雪崩を心配しながら登る。急な尾根に苦戦するも、アイゼンなしで頂上に到着できた。S隊もスキー板で非常に登り辛そうだったが、大きな遅れもなく全員で登頂。頂上からは日本アルプスに負けずとも劣らない素晴らしい山々がそこにあった。北には鋭く尖った別山、その奥に白山、そこから西へ赤兎山、遭難で全国的に有名になった大長山、経ヶ岳、東には大日ヶ岳、南には深田久弥の故郷の百名山である荒島岳。黄砂の影響が少々霞んではいたが素晴らしい展望に大満足だった。頂上の三角点は雪の中で、東側は巨大なせっぴの崖になっているのでおとなしく展望を楽しみながら春の日差しの中昼食をとった。下山はダイレクト尾根を下る。尾根を少し下った所から右手に滑り易そうなゲレンデが広がっていたので、尾根から外れこちらへ下る。S隊は山スキーを、C隊はシリセードを十分に満喫できた。テントを撤収し、後ろ髪を引かれながら牧場を後にした。林道はS隊の本領発揮で、C隊はゆっくり下山した。下界は夏日の様で行きの時にあった雪がかなり溶けていた。帰りはウイングヒルズの近くの「満天の湯」に浸かり、いつも通り蕎麦を食べ、スキー客で渋滞する道を帰った。

感想

2日間とも天気が非常に良く、春の山を十分に満喫できた。あまり天気が良すぎるので顔の皮が捲れめくれるほど日焼けして、鼻は天狗のように真っ赤。でも本当に楽しかった。

「雪山の醍醐味はシリセードと見極めたり」 by 蟻